鎌倉

鎌倉は、神奈川県の南部、三浦半島の湘南海岸側（西側）の付け根あたりに位置しています。周囲を山と相模湾で囲まれた天然の要害の地で、源頼朝を旗頭として、北条時政、北条義時らによって鎌倉幕府が置かれました。

鎌倉は歴史の街でもあります。鎌倉幕府は、「いい国作ろう」と歴史年表を覚えた1192 年に開かれたと学びましたが、今日では、「いい箱作ろう」と、1185 年説が定説になっています。

東・北・西のいずれから鎌倉に入るとしても山を越えない、防御をしやすい土地柄です。鎌倉の代名詞のような「切通し」は、「鎌倉七口」と呼ばれる、山を切り開いた狭い通路のことです。

近代に入ってから“鎌倉文士”と呼ばれる作家や芸術家などの文化人が住むようになり、一層着目され、ドラマや小説などの舞台にもなっています。鎌倉文学館などは、それを象徴する一つです。文学青年ではありませんが、私も、若い頃は鎌倉に住んでみたいと思ったほどです。

人口は、18万人に届かんとする、神奈川県でも五指に入るくらいの大きさの中核都市です。

鎌倉市公式サイト　http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/

■　交通

路線バス情報

http://www.kanagawabus.or.jp/app/routebusstop/terminal/tid/136

鎌倉

鎌倉2016　初日コース

鎌倉2016　2日目コース

■　行程

鎌倉駅＜バス＞北鎌倉　東慶寺　4番**浄智寺**　岩舟地蔵　海蔵寺　浄光明寺　英勝寺　3番**寿福寺**　鎌倉駅

寿福寺に北条政子・源実朝を偲ぶ
散策コース

コース概要

・このコースは鎌倉幕府を創生した源頼朝に関係の深い妻・北条政子と次男・源実朝が眠る寿福寺に焦点を当てている。源氏山のふもとにある寿福寺は源頼朝の父・義朝の館があった所でもある。

この寿福寺へのコースは、鎌倉の多くの有名な史跡を散策出来る。先ず、北鎌倉駅近くの鎌倉五山第２位・円覚寺から出発し、花の寺で有名な東慶寺、鎌倉五山第４位・浄智寺を経て、花の寺で有名な浄光明寺、海蔵寺、英勝寺で花々を見て、最後に寿福寺で北条政子、源実朝を偲び、鎌倉駅に至る約３～４Ｈのコース。最後は余裕があれば小町通りで買い物をするのも良い。

コース見所

・寿福寺で、源頼朝に関係の深い妻・北条政子と次男・源実朝のやぐら（墓）。
・鎌倉五山第二位・円覚寺の七堂伽藍。
・花の寺（東慶寺、浄智寺、海蔵寺、英勝寺、浄光明寺）の四季の花。
・浄光明寺の重文・阿弥陀三尊像。

コース順序

乗り物 ➡徒歩（史跡間の時間。史跡内の時間含まず）

＊名所名部分をクリックしますと詳細をご覧いただけます

JR北鎌倉駅 → 1 → 円覚寺 → 3 → 東慶寺 → 5 → 浄智寺 → 10 → 亀ヶ谷切通し → 10 → 岩船地蔵 → 7 → 浄光明寺 → 15 → 海蔵寺 → 10 → 英勝寺 → 3 → 寿福寺 → 10 → JR鎌倉駅

鎌倉五山[編集]

我が国の禅宗のうち、臨済宗の寺院を格付けをする制度。すなわち、幕府が任命した住持(住職)を順次上位の寺に昇進させることにより、幕府の管理下に置き、コントロールしようというもの。 鎌倉幕府の五代執権、北条時頼の頃、中国の五山の制に倣って導入したのが始まりで、その時々に応じて入る寺院や順位などが変動した。最終的には、京都と鎌倉にそれぞれ五山、その上に「五山之上(ござんのうえ)」という最高寺格として南禅寺が置かれた。現在の五山の順位が決まったのは、至徳 3(1386)年、室町幕府三代将軍・足利義満の時。ちなみに、五山の下には、十刹、諸山がある。

鎌倉市／鎌倉五山
2015 年 3 月 31 日 ... 五山の制度は、各禅刹の寺格を決め,官が任命した住持を順次上位の寺へと昇任させて いくという中国の制度です。北条氏がこれを取り入れ、初めは建長寺・円覚寺・**寿福寺**・ 浄智寺など、鎌倉の主な禅刹が五山と呼ばれていました。
www.city.kamakura.kanagawa.jp

https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kamakura.../115zan.html

東慶寺（臨済宗円覚寺派）（とうけいじ）

http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kamakura-kankou/meisho/04toukeiji.html
開山は北条時宗の妻であった覚山志道尼、開基は時宗の子、北条貞時で 1285 年（弘安 8）に創建。縁切寺法で女性を救済したことから「駆け込み寺」や「縁切り寺」の俗称で名高い。鎌倉三十三観音第 32 番。東国花の寺。
鎌倉市山ノ内 1367　　0467-33-5100　200 円　8:30～17:00
松岡宝蔵／鎌倉地方特有の「土紋」が付いた木造聖観音立像（国重文）ほか、東慶寺文書（国重文）、初音火取母（国重文）、葡萄蒔絵螺鈿聖餅箱（国重文）など。文学碑／田村俊子記念碑、佐佐木信綱歌碑、四賀光子歌碑、高見順詩碑ほか多数（山門前の案内板を参照）。文学碑と同様に文人、著名人の墓が多い
松岡宝蔵 9:30～15:30　常設展 400 円、特別展 500 円、小中学生は一律 200 円（休館日：月曜日（祝祭日の場合は開館）

- **浄智寺　－　第四位　北鎌倉**

https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kamakura-kankou/meisho/03joutiji.html
鎌倉市山ノ内1402　0467-22-3943　200円

浄智寺（じょうちじ）は、神奈川県鎌倉市山ノ内にある禅宗の寺院。臨済宗円覚寺派に属する。鎌倉五山第四位。山号を金宝山（きんぽうざん）と称する。中世から江戸時代にかけて「金宝山」と「金峰山」が混用されてきた（出典：『鎌倉の地名由来事典』三浦勝男編東京堂出版）。本尊は阿弥陀如来・釈迦如来・弥勒如来の三世仏で、それぞれ過去・現在・未来を象徴する。開基（創立者）は北条師時、開山（初代住職）は南洲宏海、大休正念、兀庵普寧の 3 名が名を連ねる。境内は「浄智寺境内」として国の史跡に指定されている。

鎌倉市／**浄智寺**（臨済宗円覚寺派）（じょうちじ）
2015 年 4 月 10 日 ... **浄智寺**（臨済宗円覚寺派）（じょうちじ）. 鎌倉五山の第四位で、北条宗政の妻と子の師時 が 1281 年（弘安 4）ごろに創建。苔むした参道の階段と、鐘楼のある山門が印象的。 鎌倉三十三観音第 31 番、鎌倉二十四地蔵第 12 番。 joutiji ...
www.city.kamakura.kanagawa.jp
https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kamakura.../03joutiji.html

仏殿に、鎌倉時代に特徴的な「法衣垂下像」である木造三世仏坐像ほか。参道入口に甘露ノ井（鎌倉十井の一つ）。布袋尊（鎌倉七福神の一つ）

浄智寺から鎌倉街道に戻り、右手に長寿寺を見ながら右折し、亀ヶ谷坂切り通しを２０分で通り抜けますと、右手に薬王寺、岩舟地蔵堂があります。

そこを右手に折れ、横須賀線の下をくぐって直進しますと、突き当たりが

ますと、ひんやりした風の通う亀ヶ谷坂切り通しの上りとなりました。ゆっくりと登ってゆきますと下り坂になるところに案内板があり、かつては建長寺や円覚寺と鎌倉中心街

を結ぶ重要な街道であったとあります。いまは、バイクのみが通行を許される切り通しです。

岩船地蔵（いわふねじぞう）

由来

北鎌倉駅から歩き、亀が谷切通しを下った丁字路のところに岩船地蔵がある。最近造り直されて新しい建物になってしまって寂しい感がする。堂内には白顔の地蔵が安置されている。源頼朝の息女・大姫の念持仏と伝えられている。日本三大岩船地蔵の一つである。大姫は不幸な娘であった。人質で鎌倉へ来ていた木曽義仲の嫡男・義高と馴染んでいた。木曾義仲が近江粟津で源頼朝の追討軍に殺害された後、頼朝は人質であった義高も殺害した。義高が殺害された後、大姫はノイローゼとなり頼朝、政子の祈願も空しく、建久８年（1197）、２０歳の若さで亡くなった。哀れな死をいたむ北条、三浦、梶原など多くの人々が、この谷に野辺の送りをしたと伝えている。木曽義高の墓は常楽寺の裏山にある。

歴史リンク		大姫の歴史背景と時期を表示します。 ▶歴史リンクへ
散策		大姫を偲ぶ散策コースを紹介。 ▶大姫を偲ぶ散策コース
基本情報	アクセス	JR 北鎌倉駅から亀ヶ谷切通し経由で徒歩 20 分

http://www.kamakura-burabura.com/meisyokamakuraiwafunejizou.htm

海蔵寺

http://www.kcn-net.org/kokenchiku/kaizoji/kaizoji.html

海　蔵　寺

[寺号]　扇 谷 山　海 蔵 寺（臨済宗）

[所在地]

海蔵寺は、JR 鎌倉駅西口より市役所方面に向かい、最初の交差点（信号あり）を右折し、横須賀線を右手にして北に向かいます。10分足らずで、左手に寿福寺、英勝寺があり、そのまま線路に沿って進みます。
横須賀線のガードが右手に見えるところから、左折するようにさらに 300 メートルほど進むと、谷間の突き当たりにあります。

[海蔵寺の古建築]

山門、**本堂**、**庫裏**を地図から見る場合は、下の図の該当する「**白抜き文字**」をクリックしてください。新たなページとして開きます。

[境内案内]

境内入口の右手に底脱(そこぬけ)ノ井があります。鎌倉十井の一つです。名前の由来の一つに、次のような話があります。

室町時代、上杉氏の一人の女性が尼として修行していたときのこと、この井で桶に水を汲んだところ、底が抜けてしまったそうです。ところが、このことで心のわだかまりか解け、悟ることができたとのことです。

傍らに立つ石碑には「賤の女が　いただく桶の　底脱けて　ひた身にかかる　有明の月」とあります。

寄棟造、桟瓦葺き。禅宗様を基調とし、内部は土間とする。正面仏壇に薬師三尊像と十二神将像を安置し、堂内右側には伽藍神像、左側には位牌を安置する。堂は安永6年(1777年)または同7年に鎌倉の浄智寺から移築したものと伝える。天正5年(1577年)の棟札が残るが、移築時に大幅な修理が加えられている[2]。本尊薬師如来坐像の胎内には、源翁和尚(空外)が赤児の泣き声を頼りに土中から掘り出したと伝える仏面を納めており、その伝説から啼薬師(なきやくし)、児護薬師(こもりやくし)と通称する。(【Wikipedia】)

仏殿（薬師堂）

仏殿（薬師堂）について

仏殿は、桁行三間（約 6.4 メートル）、梁間三間で、安永六年（1777）に浄智寺の仏殿であったものが移築されたもので、そもそもの建築は慶安二年ではないかという推定もあります。

正面中央は、桟唐戸両開きで、その両外側には花頭窓がつきます。

外回りは、地覆、腰貫、内法貫、頭貫、台輪を配します。
柱は角柱で、四隅に切込みが入り、上部には粽がつきます。柱の上の組物は、平三斗で、正面は中備えを2組、両外側は1組を配します。

庫　　裏

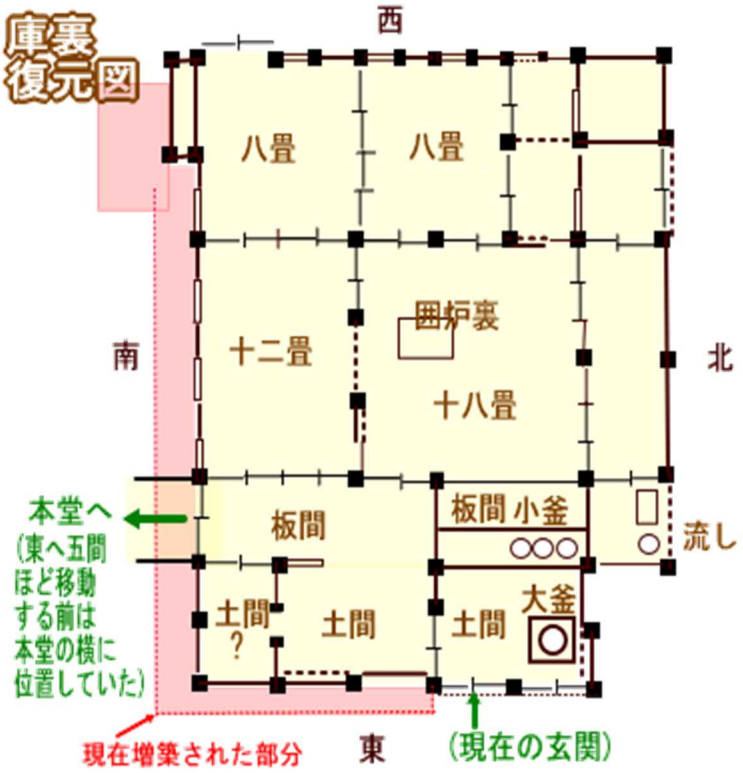
下の写真にマウスポインターを載せると
細部をご覧になれます。

庫裏について

桁行き七間半、梁間五間の寄棟造りの茅葺で、天明五年（1785）のものです。
特徴は、出し桁（だしげた）造りで、軒下に横木を長く出し、その上に長い桁を渡し、屋根の一番下の外側を支えます。

中二階があります。東側（現在の玄関のある面）や南側(本堂前の広場に面する

面)の一階部分に増築された部分があるなど、かなり改築されてはいますが、それでも昔の姿をよく伝えているといわれます。



(『鎌倉市文化財総合目録　建造物編』より作成)

庫裏は、五間ほど西（境内の奥の方向）にあり、本堂の向かって右に並ぶように立っていたものを、関東大震災後現在の位置に移したとのことです。

現在の玄関(東)側は土間や台所で、かまどや流しがありました。

奥に田の字型に4つの部屋などがありますが、およその配置は現在も保たれているようです。

【Wikipedia】
山門 － 四脚門。修理時に台輪(柱上に渡す水平材)から応仁 2 年(1468 年)の墨書が発見されたが、現在の門は大部分の材が江戸時代のものとなっている。[1]
本堂 － 十一面観音を安置。本堂裏手には、現住職が造営した石庭がある(非公開)。
薬師堂 － 寄棟造、桟瓦葺き。禅宗様を基調とし、内部は土間とする。正面仏壇に薬師三尊像と十二神将像を安置し、堂内右側には伽藍神像、左側には位牌を安置する。堂は安永 6 年(1777 年)または同 7 年に鎌倉の浄智寺から移築したものと伝える。天正 5 年(1577 年)の棟札が残るが、移築時に大幅な修理が加えられている[2]。

本尊薬師如来坐像の胎内には、源翁和尚（空外）が赤児の泣き声を頼りに土中から掘り出したと伝える仏面を納めており、その伝説から啼薬師（なきやくし）、児護薬師（こもりやくし）と通称する[3]。
庫裏 － 2 階建て、出桁造で、江戸時代の建立である[4]。
底脱の井（そこぬけのい） － 寺の入口にあり、鎌倉十井（じっせい）の一とされている。安達泰盛の娘千代能が「千代能がいただく桶の底ぬけて水たまらねは月もやどらず」が詠んだことが由来と伝える。上杉家の尼が「賤の女が戴く桶の底ぬけてひた身にかかる有明の月」と詠んだことによるともいう。[5]
十六の井 －「十六井戸」とも。薬師堂裏手の岩窟内にある。岩窟の床面に縦横各 4 列、計 16 の丸穴があり、水が湧き出している。井戸ではなく、納骨穴とも、十六菩薩になぞらえたものとも言うが、正確なことは不詳である。岩窟の正面奥壁には観音菩薩像と弘法大師像を祀る。他に嘉元 4 年（1306 年）銘の阿弥陀三尊像板碑が壁面に安置されていたが、鎌倉国宝館に寄託されている。[6]
花暦 － よく手入れされた境内に咲く四季の花の美しいことでも知られる。早春の梅、夏の凌霄花（のうぜんかずら）・桔梗（ききょう）、初秋の萩、冬の水仙・福寿草など。

浄光明寺
http://www.kamakura-burabura.com/meisyokamakurajyoukoumyouji.htm

浄光明寺（じょうこうみょうじ）

由来
1251 年に創建された浄光明寺は、国の史跡に指定されており、貴重な名仏や遺跡が残されている。特に収蔵庫に安置されている阿弥陀三尊像は、国の指定重要文化財で鎌倉彫刻の傑作と名高い。また、ハギの名所としても知られ、秋になるとヒガンバナと共に境内に彩りを添える。この寺は、真言宗の寺。北条氏六代執権・北条長時が建長三年（1251)に創建して、浄土（諸行本願義）、真言、華厳、律の四宗兼学の寺として、開山に真阿（真聖国師）を迎えた。建武2年（1335）、一時足利尊氏がこの寺に引き篭り、後醍醐天皇に対し挙兵する決意を固めたという。尊氏、直義兄弟の帰依は厚く、尊氏による寺領寄進、直義による仏舎利の寄進などが行われたことを書いた古文書が残っている。本尊は阿弥陀三尊像。

見所

・客殿

入母屋造り日本最古の唐様建築。この仏舎利は三代将軍源実朝が宗に使者を派遣し能仁寺から求めたもの。

・収蔵庫の阿弥陀三尊像

この寺の阿弥陀三尊像は鎌倉時代後期正安元年(1299)の作で素晴らしい仏であり、中世鎌倉地方彫刻の代表的作例。重文に指定されている阿弥陀三尊像は鎌倉独特の土紋装飾が施された仏像で、鎌倉彫刻の傑作と名高く国の重要文化財に指定されている。

・本殿

本尊・阿弥陀三尊像を安置していたことから阿弥陀堂とも呼ばれている。市文化財

・網引地蔵(市文化財)

岩壁に大きなやぐらが掘られており、「網引地蔵」と呼ばれる石造地蔵菩薩坐像が祀られている。

その昔、由比ヶ浜の漁師の網にかかって引き揚げられたことから「網引地蔵」と名付けられ、背中には 1313 年の銘が刻まれている。鎌倉二十四地蔵の一つに数えられている

・冷泉為相の墓

・冷泉為相の墓(藤原定家の孫で歌人、阿仏尼の子供)史跡

・客殿のハギ

庭に咲くミヤギハギ(9月)。浄光明寺はハギの寺として知られている。

・不動堂

天明三年(1783)に再建された。

・イヌマキの大木

阿弥陀堂前の大木で、創建時に植えられたものとされ、推定樹齢は約750 年。市指定文化財

境内 MAP	浄光明寺の境内の名所を分かり易く地図で表示します。 ▶浄光明寺境内 MAP
歴史リンク	浄光明寺が創建された歴史背景と時期を表示します。 ▶歴史リンクへ
仏像	浄光明寺の仏像を紹介。 ▶浄光明寺の仏像へリンク

花	浄光明寺の花を紹介。	▶浄光明寺の花へリンク			
	スイセン	シャクナゲ	ハギ	紅葉	
散策	浄光明寺を含めた散策コースを紹介。 ▶①浄光明寺を含めた散策コース ②仏像散策コース ③ハギ(9 月)散策コース				
基本情報	アクセス	JR 横須賀線「鎌倉駅」西口から徒歩 18 分			
	住所	〒248-0000 神奈川県鎌倉市扇ガ谷 2-12-1			
	TEL	0467-22-1359			
	定休日	無休(阿弥陀堂と収蔵庫は月～水曜日、金曜日、雨天時、8 月、年末年始は拝観休止)			
	拝観時間	9:00～16:00(阿弥陀堂と収蔵庫は木・土・日曜日、祝日の 10:00～12:00 と 13:00～16:00)			
	拝観料	無料(阿弥陀堂から先は 200 円)			
	駐車場	なし			
	WEB情報	浄光明寺 Wikipedia			

地図 地図へ

英勝寺
http://www.kamakura-burabura.com/meisyokamakuraeisyouji.htm

英勝寺（えいしょうじ）

由来

1636 年に創建された英勝寺の境内には、創建当時から現存する建物が数多く残っている。主要な建物である山門、仏殿、鐘楼、祠堂、祠堂門（唐門）は、すべて国の重要文化財に指定されていて、見どころは多い。
浄土宗のこの寺は、かって水戸徳川家につながる尼寺で、太田道灌の居館の地であったといわれています。今は鎌倉唯一の尼寺で、尼寺に相応しい佇まいを見せている寺です。家康に寵愛されたお勝の方は、太田道灌の曾孫・康資の娘です。幼名をお梶といい、やがて家康の側室の一人になります。
家康の死後、お勝の方は出家し英勝院と号しました。将軍・家光から寺地として賜り、寛永１１年（1634）、菩提寺としたのが始まりです。英勝尼が、この地を先祖である道灌の屋敷跡と考えた為といわれています。
寛永 13 年(1636)、寺が完成すると英勝寺と名付け、徳川頼房の娘・小良姫を玉峰清因と号し、開山としました。

見所

房の子・松平頼重が英勝院の一周忌のために
に建立したと伝わっている。1923 年の関東大
全壊したが、全ての部材が資産家に買い取ら
有地に再建された。その後、約 80 年を経た
に英勝寺が買い戻し、資金面等多くの人々の
得て復興工事が行われ、2011 年に落慶供養が

・仏殿
1636 年に英勝院によって建立され、1643 年に徳川頼房が英勝院の一周忌のために改築して現在の姿になった。軒下には仏殿では珍しい十二支の装飾

・唐門
両面両面透かし彫りのボタンの花があしらわれ、江戸時代初期の高度な技術を見ることが出来る。（国重文）

・鐘楼
総門と同様に英勝院
周忌のために 1643 年
立された。鎌倉では
寺にしかない袴腰造
しい様式で、県の重
化財に指定されてい

た。2013 年には国の重要文化財に指定されて

彫刻がある。（県重文）
堂内には、徳川家光が寄進した運慶作の本尊・阿弥陀三尊立像が安置されている。装飾が施され、格式の高い尼寺の姿を伝えている。

堂
期の名建築。
の位牌を祀る建物で、徳川頼房の子・徳川光って建立されたと伝わっている。内外共に華彩装飾が施されている。
仏殿、鐘楼と共に、この祠堂と祠堂の門（唐国の重要文化財に指定されている。

・竹林
境内の奥にある小さな門をくぐると、遊歩道が整備された竹林が広がっている。

・徳川と大田家の御紋
昔は水戸御殿と呼ばれる程、格式の高い寺で、三つ葉葵と大田家の紋が掲げられている。

・阿弥陀如来像
仏殿には、徳川家光の運慶作の本尊阿弥尊立像が安置されてる。

花

英勝寺の花を紹介。

▶ 英勝寺の主要な花

ウメ

フジ

ヒガンバナ

紅葉

基本情報	
アクセス	JR 横須賀線「鎌倉駅」西口から徒歩 12 分
住所	〒248-0000 神奈川県鎌倉市扇ガ谷 1 丁目 16−3
TEL	0467-22-3534
定休日	木曜日
拝観時間	9:00～16:00
拝観料	300 円
駐車場	有り(20 台 ※最初の 1 時間 600 円、以降 30 分毎に 300 円)

3番寿福寺

- **寿福寺** - 第三位

https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kamakura-kankou/meisho/03jufukuji.html

寿福寺（じゅふくじ）は、神奈川県鎌倉市扇ヶ谷にある臨済宗建長寺派の寺院である。鎌倉五山第三位の寺院である。山号を亀谷山（きこくさん）と称し、寺号は詳しくは寿福金剛禅寺という。本尊は宝冠釈迦如来、開基（創立者）は北条政子、開山（初代住職）は栄西である。鎌倉三十三観音第 24 番。鎌倉二十四地蔵第 18 番。境内は「寿福寺境内」として 1966 年（昭和 41 年）3 月 22 日、国の史跡に指定された。

鎌倉市／**寿福寺**（臨済宗建長寺派）（じゅふくじ）

2015 年 4 月 10 日 ... **寿福寺**（臨済宗建長寺派）（じゅふくじ）. 1180 年（正治 2）に北条政子が頼朝の父、義朝 の旧邸跡に明菴栄西を招いて創建。三代将軍実朝もしばしば訪れ、最盛期には十数か 所の塔頭を擁する大寺であったという。現在は、中門の手前まで入る ...

www.city.kamakura.kanagawa.jp

https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/.../03jufukuji.html

志納（参拝は参道のみ）、実朝・政子の墓はお参り可

参道、実朝・政子の墓と伝える五輪塔のあるやぐら（山門の脇から通じる仏殿背後の墓地にある）、高浜虚子の墓

■ 二日目

鎌倉時代の古刹・光明寺と
和賀江島を訪ねて
散策コース

コース概要

・光明寺の創建は鎌倉時代の寛元元年(1243)です。開基は鎌倉幕府第四代執権・北条経時です。光明寺は鎌倉には比較的少ない浄土宗の寺で元関東総本山。第五代執権・北条時頼以降も歴代執権の帰依を受け、七堂伽藍を整えた大寺院に発展。念仏道場の中心となった。

この光明寺に向けて鎌倉駅から歩く途中、今の鶴岡八幡宮の前身の元八幡を参拝し、源頼朝が三浦大介義明の菩提を弔うために建立した来迎寺を参拝。その後、新田義貞の鎌倉攻めの際、新田義貞が本陣とし、幕府滅亡後、北条方の大勢の戦死者を弔うためにその跡地に建立した九品寺を参拝。しばらく海岸の方に歩くと光明寺の大きな山門が見えて来ます。光明寺を参拝した後、材木座海岸に出て、鎌倉時代の港であった和賀江島まで行く２Ｈ～３Ｈコース。

コース見所

・光明寺の三尊五祖の石庭と記主庭園（小堀遠州作）、大株百本の古代ハス（見頃は７月中旬～8 月中旬頃）、樹齢 150 年のカイドウ（見頃は 4 月中旬頃）、サクラの時期の山門の風景、内藤家墓所
・来迎寺のミモザの花（３月）
・九品寺のボケの花（３月）

コース順序

🚌乗り物 ➡徒歩（史跡間の時間。史跡内の時間含まず）

鎌倉駅 → 15 → 元八幡 → 10 → 来迎寺 → 10 → 九品寺 → 10 → 光明寺 → 5 → 内藤大名墓所 → 10 → 和賀江島 → 20 → 鎌倉駅

元八幡（もとはちまん）

由来

元八幡宮は,源頼朝の先祖の源頼義の子源義家と、「前九年の役」(1051～1062 年)で奥州の豪族・安倍氏(安部氏の反乱)を討伐した。源頼義は「前九年の役」にのぞんで、源氏の氏神である京都の石清水八幡宮に戦勝祈願を行い、勝利したお礼として、役を平定した翌年の康平 6 年(1063)に、由比の地に(由比郷)に京都・石清水八幡宮を移し、祀ったところである。

源氏の氏神である八幡宮を、開府以前の鎌倉に祀ったということは、鎌倉が源氏にとって如何に重要で有ったかが伺える。治承 4 年(1180)10 月 6 日、源頼朝は安房から大軍を引き連れて鎌倉入りを果たした時、源氏の守り神を祀った、この源氏ゆかりの八幡に最初に訪れている。その後、治承 4 年(1180)10 月 21 日に源頼朝が由比若宮(元八幡宮)を小林郷北山に遷座したのが、現在の鶴岡八幡宮である。

来迎寺(らいごうじ)

由来

材木座にある来迎寺は、今は時宗派の寺院である。

かってこの地に源頼朝が三浦大介義明の菩提を弔うため、建久五年(1194)に建立した真言宗能蔵寺があった。開山の音阿上人が時宗に帰依したため、建武二年(1335)に改宗、来迎寺となった。

三浦半島の衣笠城主であった義明は、源頼朝旗揚げの時に、畠山重忠の軍勢と闘い、89 歳で戦死した。頼朝は義明の武功を称えたと言う。

また由比ガ浜で畠山軍との戦いで 17 歳の若狭で戦死した多々良三郎重春の墓が並んで立っている。

3 月には本堂前のミモザの花が見事です。

・本堂
本堂には本尊・阿弥陀三尊が安置されている。阿弥陀三尊は運慶作と伝えられ、義明の守り本尊だったといわれている。

・三浦大介義明の五輪塔
本堂の横には二人を供養する五輪塔が建てられており、右が義明で左が重春のもの。三浦氏は代々源氏に仕えた家で、1180 年の源頼朝の挙兵の際にも源氏に加勢している。義明は平家方の畠山重忠と衣笠城で合戦になり討ち死にした。重春は来迎寺付近で畠山重忠と戦い、若干 17 歳という若さで討死している。

三浦一族の墓
本堂の裏には三浦家の家臣の墓とされる 100 基あまりの五輪塔が並べられている。 ・木造三浦大介義明の坐像
義明は平家方の畠山重忠と衣笠城で合戦になり討ち死にした。

九品寺（くほんじ）

由来
九品寺は浄土宗の寺。この寺は元弘三年（1333)の鎌倉攻めの折、新田義貞が材木座に本陣を構えた。北条高時以下一族は自害し、鎌倉幕府は滅亡した。

その三年後、建武三年（1336)に北条方の大勢の戦死者を弔うため、新田義貞が本陣跡地に建てた寺。九品寺は鎌倉に建てた唯一の寺です。

九品とは極楽往生を願う人の生前の行いによって定められた九種類の往生の有様をいう。上品、中品、下品のそれぞれに上生、中生、下生があり、合わせて九品とされる。

・本堂
南北朝時代の作と言われる本尊の木造阿弥陀如来立像、石造薬師如来像が安置されている。
・九品寺の額
「九品寺」の額は、新田義貞の筆を写したもの。直筆の額は本堂に保存されている。
・ボケの花
3 月に咲くボケの花。
・本尊
本尊の阿弥陀如来立像

光明寺（こうみょうじ）

由来

光明寺は、浄土宗大本山の格式にふさわしく、鎌倉有数の大伽藍を誇る。この寺の創建は鎌倉時代の寛元元年(1243)です。開基は鎌倉幕府第四代執権・北条経時です。開山は浄土宗の第三祖の良忠。光明寺は鎌倉には比較的少ない浄土宗の寺で元関東総本山で、第五代執権・北条時頼以降も歴代執権の帰依を受け、七堂伽藍を整えた大寺院に発展。念仏道場の中心となった。

江戸時代も徳川家康や家綱の擁護を受け、学問と修業の中心として栄えた。また皇室との関係も深く、後花園天皇からは山門にある「天照山」の掲額を、後土御門天皇からは、関東における念仏修業根本道場として「関東総本山」の称号を受け、国と国民の平和を祈る「勅願所」となった。本尊は阿弥陀如来（県重文）.

http://komyoji-kamakura.or.jp/

・山門

現在の山門は 1847 年に再建されたもので、高さ約 20m の巨大な二重門。一階が和風、二階が中国風の造りになっており、中央に掲げられた「天照山」の額は、1436 年に後花園天皇より賜ったもの。二階には釈迦三尊・四天王・十六羅漢が祀られている。

・本堂

本堂（重要文化財）ー元禄 11 年（1698 年）の建立。入母屋造、銅板棒瓦葺きで、桁行 9 間、梁間 11 間。実寸は間口奥行ともに約 25 メートルの、鎌倉地方では最大級の本堂である。簡素な外観とは異なり、堂内は豪華絢爛。中央には本尊の「阿弥陀三尊像が安置されている。

・三尊五祖の庭園

「三尊五祖来迎の庭」と称する枯山水庭園がある（小堀遠州作）。

・紀主庭園とハス

毎年 7 月には「観蓮会」（有料）が催され、大聖閣で眼前のハスを眺めながら抹茶を味わえる。ハスは約 2000 年前の種から発芽した「古代ハス」が記主庭園の池を埋め尽くす。

・北条経時の墓所

鎌倉幕府第四代執権・北条経時の墓所。

・かながわの景観50選

光明寺の背後の山は天照山と呼ばれ、本堂右手の道から上ることができる。山の中腹には開山・然阿良忠をはじめとした歴代住職と、開基・北条経時の墓所がある。また、天照山からは由比ヶ浜の海を一望でき、晴れた日には富士山を望むことができる。

・お十夜

例年 10 月 12 日～15 日まで行われる念仏法要。現在は植木市や露店なども立つ。

・内藤家墓所

日向延岡の領主内藤家歴代の墓所で、200 基以上の石塔が立つ。

記主良忠（きしゅりょうちゅう）（然阿弥陀仏といい、然阿と略称し、記主禅師と尊称される。）

1199－1287（正治 1－弘安 10）。浄土宗第三祖。二祖の弁長の教えを継いで専修念仏を弘め、多くの書を著わして浄土宗の教学を大成した。 主として関東に布教し、多数の寺院を建立して門弟の育成に専念し、浄土宗教団発展への礎地を作った。

石見国三隅庄（いわみのくにみすみ）（島根県那賀郡）の人。 姓は藤原氏。1211 年（建暦 1）同国鰐淵寺月珠房信暹（しんせん）の門に入り、14 年（建保 2）比叡山で受戒した。若いころ天台・倶舎・法相・禅・律などを学んだが、32 年（貞永 1）故郷の多蛇寺に帰り、不断念仏を行なって数年を送ったという。 その後、36 年（嘉禎 2）生仏の勧めにより九州に下向して上妻天福寺（福岡県）に行き、布教中の弁長の弟子となった。翌年まで『観経疏』『法事讃』『観念法門』『般舟讃』『論註』『安楽集』『往生要集』『選択集』『十二門戒儀』などをいちいち弁長から読み伝えられ、4 月には『末代念仏授手印』、8 月には『徹選択』を授かった。 その間とくに良忠は『西宗要』を書き写し、『領解末代念仏授手印』を著わして弁長の印可を受け、事実上の後継者となった。38 年（暦仁 1）故郷に帰ったのち、安芸（あき）（広島県）地方を強化した。 48 年（法治 1）春、浄意尼の依頼で京都に行き、『選択集』を講じた。秋ごろから信濃（しなの）（長野県）に向い善光寺に参詣、49 年（建長 1）利根川に沿って関東に入り、下総（しもうさ）（千葉県北部）の教化をはじめ、翌年には『浄土大意鈔』を著わした。 54 年（建長 6）鏑木（かぶらぎ）九郎の帰依を受て匝瑳（そうさ）郡鏑木に住み、浄土宗典解釈上の標準となる『決疑鈔』を著わし、ついで江禅門の依頼により『三心私記』を著わした。 年末から 57 年（正嘉 1）にかけて良忠は千葉氏一族の外護を受け、常陸（ひたち）（茨城県）・上総（かずさ）（千葉県中部）・下総の三国にわたる教化活動を続け、浄土宗学の基本となる『決答授手印疑問鈔』『伝通記』を著わし、『観経疏』『往生論註』『往生礼讃』『群疑論』などの講義を続けた。 こうして良忠は有力な外護者の保護のもとに多くの講義と著述のために精力的な活動を行ない、多数の弟子を育成した。 しかし寺領問題と感情問題で外護者と衝突し、59 年（正元 1）ごろ数人の弟子を連れて下総を去り、慈恩房を頼って鎌倉に入り、大仏勧進聖浄光の坊に仮り住いをした。 当時の鎌倉は黒衣念仏僧の追放などを行なっており、生活は厳しかったが、良忠とその門下は模範的な生活を続け、目立つ存在となった。 その後、

大仏（おさらぎ）朝直の帰依を受けて佐介谷（さすけがやつ）に悟真寺を創建し、子息の時遠から悟真寺房地と鳩井逸田（埼玉県）の寄進を受けて経済的基盤を確立した。

その後は鎌倉における専修念仏者の間で指導的立場に立つとともに、他宗僧侶の間でも大きな位置を占めた。日蓮が政府に諫言し、諸宗を攻撃して自分の正統を主張したのに対し、理智光寺道教や極楽寺良観などとともに積極的に対抗し、日蓮を身延に入山させる結果を招いた。 こうして良忠の名声は不動となり、その学徳を慕って参集する弟子も多く、武士の間にも帰依者をもつようになった。72 年（文永 9）大病を患って、比叡山東塔極楽房で修行中の良暁を呼んで遺言状を与えたが、この噂を聞き、京都から然空と良空が下向して良忠の門に入り、ともに浄土宗の奥義を習得した。 やがて良忠の病気は快方に向い、然空と良空は上洛したが、良暁の帰洛は認めず、さらに学問を積ませ、公私にわたる後継者に定めた。75 年（文永 12）には悟真寺で『伝通記』15 巻の大著を完成し、後世に残る数学の基礎を確立した。 76 年（建治 2）京都の弟子然空・良空らは、京都仏教界における浄土教学の乱れを嘆き、良忠の上洛を願って教界の統一をはかろうとし、良忠の上洛を要請した。鎌倉における基礎も確立した良忠は、弟子らの要請を入れて上洛、翌年然空に『末代念仏授手印』を授け、毘沙門堂阿弥の要請で『選択疑問答』を著わし、79 年（弘安 2）道光に円頓戒脈を授け、翌年には『末代念仏授手印』を授与し、82 年（弘安 5）『安楽集私記』を著わした。 在京 11 年、老齢の身をもって布教に、著述に超人的な活躍を続けたが、86 年（弘安 9）鎌倉に帰った。そして良暁に法然・弁長・良忠と三代相伝の袈裟と硯を与え、さらに浄土宗三代相伝の付法状を伝えて念仏の弘通を命じ、翌年には『伝通記』をはじめ、浄土宗の奥義のすべてを伝授し、重ねて良暁の正統性を意味づけ、87 年 7 月 6 日、89 歳で入寂した。 良忠の滅後、多くの門弟の中で、良暁・性心・良空・尊観・然空・道光の 6 人が主に活躍し、互いに教線の拡張に努め、自派の正統性を主張したところからやがて六派に分かれたが、かえって浄土宗の興隆には大きな貢献をなし、必然的に鎮西流が正統化され、法然・弁長・良忠と相伝する浄土宗の三代相承の系譜が確立した。その後、門下の六派の中の白旗派が主流となって現在に至っている。 著書は前記のほか、『往生要集義記』『観経疏略記』『往生論註記』『徹選択集鈔』『観念法門記』『看病用心抄』など多数。創建した寺院開山と仰がれる寺院も多数。（7・6 寂）

連乗院

http://www8.plala.or.jp/bosatsu/page135renjyoin.htm

連乗院は、光明寺の山門の右手にあります。ご本尊は、源頼朝に鎌倉入りを進言した千葉常胤の守護仏としての阿弥陀如です。もともとは、真言宗の寺でしたが、現在は光明寺の支院です。光明寺の新しい住職は、いったんこの寺に入ってから入山するというしきたりがあるそうです。

千手院
http://www8.plala.or.jp/bosatsu/page135senjyuin.htm

千手院は、光明寺の山門の左手にある、光明寺の支院のひとつで、一時期、専修院と呼ばれていました。開山や創建年は不明ですが、ご本尊は、千手観音で鎌倉観音巡礼第20番札所になっています。

光明寺の僧坊であったこともあり、各地から学僧が修行道場として修行を積んできました。江戸時代中期には学僧が減少し、子どもたちに読み・書き・そろばんを教える寺子屋となったりし、明治に入ると、桑楊学校と呼ばれ、芭蕉の句碑が刻まれています。

補陀洛寺
http://www8.plala.or.jp/bosatsu/page135fudarakuji.htm

補陀洛寺は、真言宗大覚寺派のお寺で、開山は、文覚、開基は、1181年（養和元年）、源頼朝で、祈願所として建立されました。しばしば竜巻に襲われたこともあり、「竜巻寺」という別名があるほどです。

ここには、平家滅亡の折、総大将平宗盛が持っていたとされる「平家の赤旗」が保管されていますし、そこには平清盛が書いたという「九万八千軍神」の文字があります。

開山の文覚は、翌年江ノ島に弁財天を勧請し、奥州平泉の藤原秀衡調伏祈願を行い、勝長寿院建立の際には、頼朝の父義朝の髑髏を持ってきたという。

鎌倉観音巡礼
第17番札所（十一面観世音）

開山　文覚（伝）
開基　源頼朝（伝）
本尊　十一面観音菩薩

和賀江島（わがえじま）

由来

和賀江島は,貞永元年(1232)に築造されたわが国に現存する最古の築港遺跡です。鎌倉の海岸が遠浅で,船の荷物の積み下ろしが不便で,また風波高い時には、着船が流されるなどの被害が多かったので、往阿弥陀仏という僧侶が幕府に築島を願い出ると、時の鎌倉幕府第3代執権・北条泰時は直ぐに許可を与え、7月15日に着工しわずか26日後の8月9日に石積みの築堤・和賀江島が完成した。その後,この港は鎌倉の海の玄関口として重要な役割を果たした。干潮時に姿を見せる和賀江島は宗船、和船が行き交った往時の海がよみがえって来るようです。

京急ﾊﾞｽ鎌倉駅発逗子方面

光明寺下車徒歩5分